

2010年7月31日（土）の夜に、水上さんから聞いたお話

ご本人の記憶であり、実際の事象とは異なることがあるかもしれません。



水上（みずかみ）さん 大正12年7月24日生まれ、86歳。

戦前の軍隊では、長野・石川・新潟・富山、がひとつのブロックであった。その中で、金沢の師団に見習い士官として配属された。金沢には騎兵連隊があり、500頭の馬がいた。そこでは、馬を1頭ずつ割り当てられた。そこで知り合ったのが、本多哲郎君（18E、逝去）。飯山の殿様の子息であったが、彼が五中のOBであった。軍隊の中で、本当に仲良かった。



40年前に、長野県から払い下げを受けてロッヂを作った。当時、デザイン賞をもらった。

戦後、ロッヂを作ったら、たまたまその前に（伊藤長七先生が手当てした）約6千坪の小石川の土地があり奇遇を感じた。それについて、本多君から「管理をよろしく頼む」と依頼された。



この土地は、以前は草刈場であった。最近の農家が必ず軽トラックを持っているように、昔の農家は農耕馬を飼い、餌を与えるために（勝手に）空き地の草を刈っていたものだった。



ここには、勝手にはいって草刈等をしてほしくないために10年ぐらい前に看板を立てた。そのため、今は（水上さんに）断りなくはいることはない。しかし、看板の字がすっかり薄くなってしまったので、なんとかしてほしい。



自分には息子がいるが、医者となり新潟大学の脳外科をやっていた。今は群馬県庁の局長となっていて、後を継がない。後継者がいないので、ロッヂを手放したい。年間1500泊ぐらいあれば、採算は取れるのではないかと思う。ロッヂの土地が1千坪。小石川の土地が6千坪。裏には藤永さん、という薬屋が持っている2千坪の土地もあるが、これも（藤永さんは）手放したいらしい。合計すれば約1万坪になる。自然は豊かだし、野鳥の会とも提携している。

